

三保羽衣・折戸地区

(静岡県 静岡市)

- 計画期間 H16年～H20年
- 面積 230ha
- 交付対象事業費 4,474百万円
- 市人口 727,648人 (地区内人口約7,800人)

ポイント

羽衣伝説や恵まれた自然と共に、官民協働で良好な自然環境と観光地としての活性化を図るまち

目標

誰もが安心快適に暮らせる緑豊かな交流居住空間の形成

景観的資源を活かしたまちの再生

指標

観光交流客数の増加、生活道路に関する満足度、羽衣の松への道の解り易さに関する満足度、公園等の整備に関する満足度

地区概要

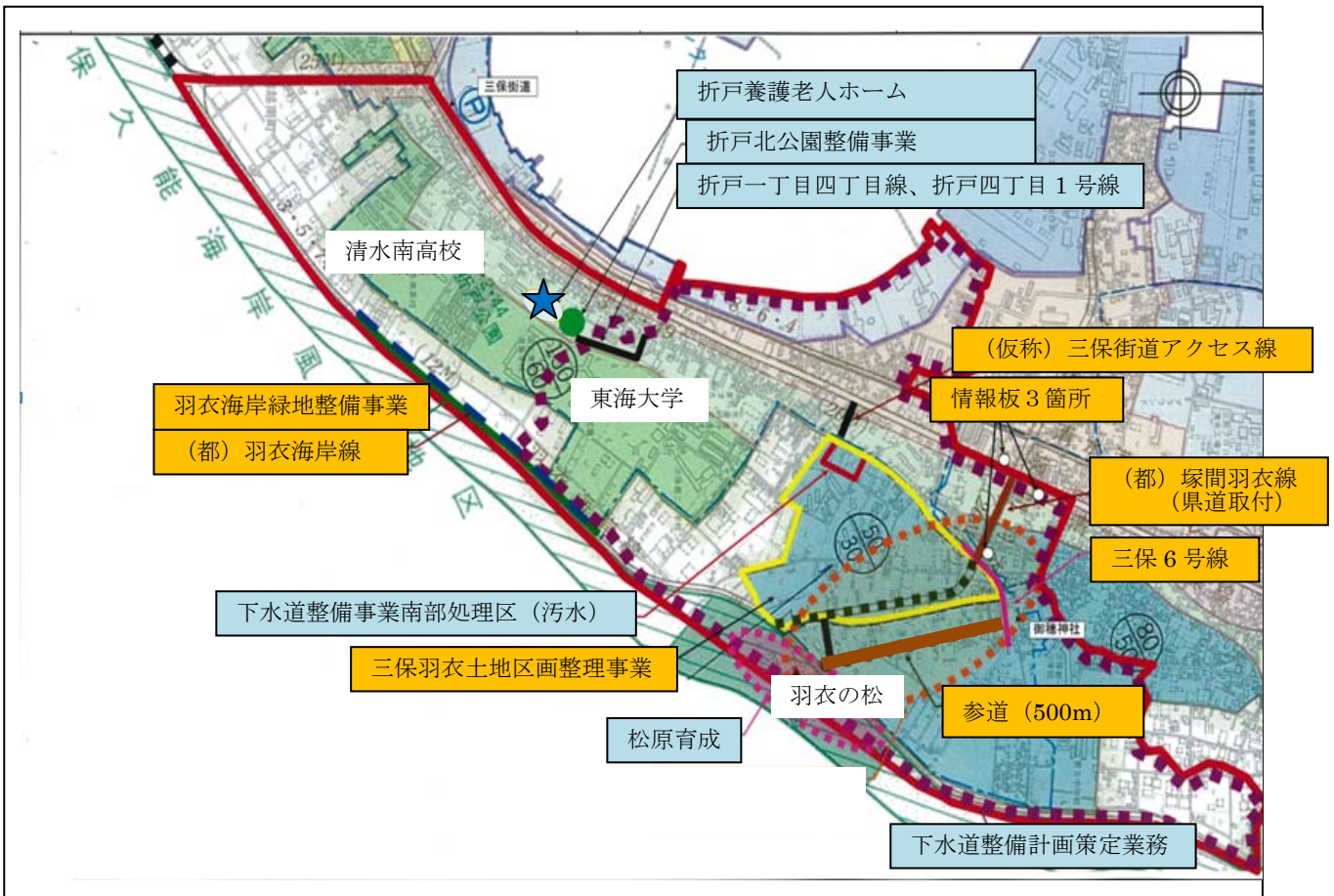
道路整備や景観・歴史・自然資源を生かした参道等の整備をすることで、安心快適なまちづくりと観光地としての再生を図る。

観光交流客数の増加	865,802人 (H16)	→	909,092人 (H20)
生活道路整備に不満を感じている人の割合	60% (H17)	→	54% (H20)
羽衣の松への道に不満を感じている人の割合	46% (H17)	→	41% (H20)
公園整備に不満を感じている人の割合	49% (H17)	→	44% (H20)

事業内容

基幹事業 (3,183百万円) → 道路(塚間羽衣線外4路線)、公園1箇所
羽衣参道、情報板3箇所、土地区画整理、海岸緑地

提案事業 (1,291百万円) → 折戸養護老人ホーム、松原育成、下水道整備計画、下水道整備(南部処理区)



地区の現況と課題

三保半島地区は、富士山の素晴らしい眺望地点であり、羽衣伝説に代表される「名勝三保松原」を有し、久能山東照宮等と連携した有名な観光地である。また、教育施設、福祉・コミュニティ施設が集中しているが、住工が混在しており、幹線道路や下水道の整備など都市基盤の整備が遅れている地区である。

幹線道路が一本しかなく、通勤時や行楽シーズンには慢性渋滞が発生する。また、下水道設備が遅れていることから、雨水・汚水処理等に課題がある。他方、観光名所・社会教育施設等が充実しているが、道路が狭隘で各施設が連携していないため、観光客・滞在時間の減少が続いており、半島全体の観光地としての活性化が望まれる。

提案事業の特徴

折戸養護老人ホーム

三保地区の津波の危険の高い老朽化した養護老人ホームの建替えを行うと共に、隣接地に折戸北公園を整備することにより、高齢者と地元の小学生や近隣住民との交流が行える場を創出した。

観光地の活性化

豊富な景観・歴史・自然資源を生かした観光地としての活性化の為、参道整備・緑地整備・名勝地の保存育成。

計画策定プロセス

まちづくり協議会

地元自治会・青年団・観光関係者で組織する協議会を設立し、ワークショップ等を行いながら地元の意見を取りまとめ、市と協働で事業を推進する。

まちづくり交付金新聞

「三保・羽衣折戸地区」の事業の進捗状況の周知。

官民の連携

市役所内に、関係各課による連絡会を設け、調整会議を行う。また、まちづくり協議会へ関係課職員が出席し、意見交換説明等を行う。

三保半島の活性化に向けて

三保羽衣・折戸地区は、全国に誇れる富士山の眺望地であると共に、名勝「羽衣の松」を有する三保半島の根元に位置しております。

まちづくりの進め方は、観光地としての活性化に主眼を置き、地元との意見交換を行いながら、市民の皆様と協働でこの事業に取り組んできました。その一つが、「三保羽衣参道」の完成です。完成までには、まちづくり協議会等で検討を行い、文化財である参道の松を傷つけないよう配慮したボードウォーク歩道や足元照明等が採用されました。これからも次世代にも魅力ある三保半島の都市基盤整備や観光地としての活性化の実現に努めてまいります。

静岡市長 小嶋善吉



名勝三保松原



羽衣参道



市道折戸一丁目四丁目線・折戸四丁目1号線



折戸養護老人ホームと
折戸中央公園（折戸北公園整備事業）

三保神の道の完成

平成21年3月14日、三保地域の念願であった、神の道が落成式を迎えました。静岡市長にも御臨席頂き、賑やかにセレモニーが行われました。木造(ユーカリ製)400m余りの神の道は、100年を超す松並木と相まってすばらしい景観をかもしだしています。三保に名勝が一つ加えられうれしい限りです。是非観光にいらした方々に一度は歩いていただきたいものです。

これを機会に、三保地域の観光資源、それを結ぶ道路を整備し、三保地区の活性化につなげていきたいものです。

三保羽衣地区まちづくり協議会会長 内 藤 睦 夫

三保の海浜植物の保全と展示

構造物の建設などの影響で群落が消滅または変化した三保の海浜植物は、本来大きな群落を作るものが多く、保全の仕方で高い観賞価値をもつものにする事が出来ます。そのため各種の生育適地を選択し、鑑賞者が立ち、通る道の配置を定めて、観賞価値が高いボリュームがある大きな群生地の造成が求められています。

海浜寄りの富士山ビューポイントまでの砂地にハマヒルガオ、ハマエンドウの混植地を造り、より陸側にハマゴウ、ハマユウの群生地を。そして、現在のノイバラ群生地にハマナスの大群生を造り、松林周辺に白い花・赤い実のトベラ、白い花・黒い実のタチシャリンバイを植え、季節ごとに楽しめる群落の形成が望まれます。

ふるさと振興委員会顧問 沼 地 健 一